Will

TOKUSHIMA
KENSHOKAI COLLEGE OF
HEALTH AND WELFARE



徳島健祥会福祉専門学校 同窓会会報｜ウィル

特 集 ｜「自ら求めつながる同窓会」

2015 MARCH VOL. 8



MESSAGE

さらなる飛躍に向けて

徳島健祥会福祉専門学校
校 長　武田　英二



1974年3月 徳島大学医学部医学科卒
徳島大学医学部付属病院、高松市民病院、米国インディアナ大学医学部などを経て、1992年より徳島大学医学部教授（病態栄養学）。栄養学科長、徳島大学病院「食と健康増進センター」長、21世紀COE「ストレス制御をめざす栄養科学」拠点リーダー、国立大学法人徳島大学大学院教授（臨床栄養学部門）、同大学教育研究評議員などを歴任。2014年4月 徳島健祥会福祉専門学校 校長に就任。
学位／医学博士（徳島大学）　受賞等／1988年 康楽賞（財団法人康楽会）・1998年 日本ビタミン学会賞・2004年 日本栄養・食糧学会賞

2014年4月から齋藤史郎先生の後を継いで校長を拝命いたしました武田英二です。私は18年間小児科、22年間臨床栄養学の教育、研究、診療を行ってきました。その経験と就任以来同僚の皆様に教えていただき自分なりに考えた専門学校および同窓会がさらに飛躍するために重要な課題について提案させていただきます。

1 海外研修

2014年9月24日から10月1日までスウェーデン、デンマーク、ノルウェーへ川畑先生、竹内先生および学生24名とともに海外研修旅行に行ってきました。北欧は税金が所得の35～45％以上ですが、平等で公平な充実した福祉社会を築いており、国民が政府を信頼しています。その例として、選挙の投票率も80～90％を誇っています。さらに、PT、OTが介護人材に対して介護方法、使用機器について指揮命令していることと施設では利用者および介護従事者を護るための介護機器が充実していることが印象的でした。このようなユニークな海外研修は、学生にとって異文化を体験できるとともに教員と学生が相互理解を図る非常に貴重な機会であると強く感じました。

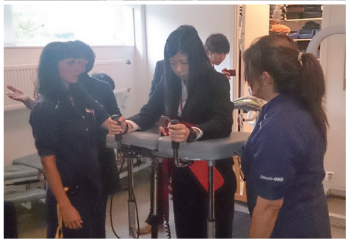
2 教育レベルの向上

超高齢社会を迎えている日本にとって、医療・保健・介護・福祉はヒトとしての尊厳を支える基盤です。専門学校では専門職を育成していますが、各専門分野の発展はめざましく、チーム医療、保健、介護、福祉を担える人材を育成するためには、常に新しい情報を得て教育することが求められます。そのために教員が学会や職能団体に積極的に参加して質の高い医療・介護を提供できる技術を獲得しておくことが必要です。

3 専門学校と同窓会との連携

学校と同窓会および介護・保育施設との関係としては、学生の実習で専門学校が大変お世話になっていることです。リハビリテーションや介護技術に関する情報は日々更新されており、教員や現場の専門職は情報を入手して利用者に還元する必要があります。教員は文献研究や調査や社会的活動（学術会議、職能団体、国際的活動）を通して、専門職の卒後教育、新規情報を提供できること、一方、介護現場からは必要とする技術、介護環境等を教示していただくことが必要です。
このような、専門学校、同窓会、介護・保育施設との連携により、現場で働く専門職の支援、現場を活用した教育・研究、充実した実習等が可能になり、今後の発展につながると確信しております。







専門性で明日を拓く

健祥会グループ

理事長　**中村　太一**

1996年 東海大学教養学部生活学科生活経済学課程卒
大学卒業後、社会福祉法人健祥会に就職。同法人及び社会福祉法人緑風会の理事・評議員、社会福祉法人育英福祉会、社会福祉法人青嵐会の理事を務める。2013年 健祥会グループ理事長就任。また、2007年11月より徳島商工会議所副会頭を務める。徳島県労働委員会使用者委員、徳島県男女共同参画会議委員、徳島地方最低賃金審議会委員、徳島県防衛協会副会長、NPO 法人チャレンジサポーターズ副理事。徳島県ゲートボール協会会長、公益財団法人日本ゲートボール連合四国地域協議会会長としてゲートボールの普及に携わる。

理事長として、暗中模索、無我夢中で歩んだ2014年度が無事に終わろうとしています。武田新校長以下、教職員、学生諸君、同窓会の皆様、利用者様や地域の皆様、行政諸機関、多くの方々のお支えに心から感謝しています。

皆さんもすでに目にしてくださっていることと思いますが、中村博彦健祥会グループ創始者亡きあと、「健祥会は大丈夫」というシグナルと未来への意志を世の中に発信するために、新しいコーポレートメッセージとロゴマーク、イメージイラストを制定しました。

「明日を想う」というフレーズには、日本の介護・医療・保育のさきがけとなるようなサービスを提供していきたいという想いを込めています。たくさんの人で形づくられた口ゴマーク、「明日の木」は、健祥会グループの原点であり、福祉の原点である人と人とのつながり、助け合い、支え合いを表現しています。そして、イメージイラスト「ハートランド」は、ぬくもりにあふれた地域社会をつくっていくために、それぞれの施設がそれぞれの地域でしっかりとお役に立ちたいという理想を描いたものです。

昨年、創始者が最後に構想した7つの施設が、北島町、国府町、三好市池田町、そして東京に、すべてオープンしました。東京へはグループ初進出であり、すすみゆく都市の高齢化を支えるとともに、地方と都市の人材交流にも資することを視野にスタートを切りました。また、齋藤名誉校長を理事長に迎えて本校に隣接して開院したむくの木クリニックでは、創始者の夢であった介護・医療連携の実践に取り組んでおり、まさに今、健祥会グループは発展から充実のエポックへと大きな一歩を踏み出したところです。

今、世界の情勢も日本の政治・経済、そして社会保障の行方も混沌としています。社会保障の充実のためにと謳われていた消費税の10％への引き上げが延期される一方で、制度の持続可能性が議論され、社会保障は冬の時代を迎えているといえます。2015年の介護保険制度改正では利用者負担の増加や、特別養護老人ホームの入所要件の厳格化などが示されるとともに、介護報酬改定では基本報酬が大きく減額され、総額で2.27％のマイナス。事業者にとっても利用者にとっても厳しい内容となりました。また、子ども・子育て支援制度がスタートしますが、保育の量的拡大・確保に主眼が置かれ、残念ながら乳幼児期教育の質の向上のための踏み込んだ施策は見当たりません。

しかし、制度はどうあれ皆さん方は、少子高齢人口減少時代を支える大切な人材としての役割を担っていかねばなりません。それぞれの現場で利用者本位のサービスを提供しながら、専門職としての誇りをもち、自らの職業領域をより広く深く極めてください。同時に、専門の殻に閉じこもることなく、多様化する社会の変化を常にしっかり捉えながら、進化と革新を追い求めてください。そのためにも同窓会の絆をいっそう強固なものとし、情報交換、切磋琢磨の場として積極的に活用してください。母校はいつまでも皆さん方をサポートし続けます。

各所で同窓生の皆さんへの高い評価とお褒めの言葉をしばしば頂戴し、嬉しく誇らしく感じています。どうか、本校で身につけた専門性と人間性をさらに陶冶して、すばらしい明日を描いていってください。ますますのご活躍を期待しています。

Will

TOKUSHIMA KENSHOKAI COLLEGE OF HEALTH AND WELFARE



［ウィル：意志］　2015 MARCH VOL. 8

CONTENTS

MESSAGE
さらなる飛躍に向けて　徳島健祥会福祉専門学校　校長　武田　英二　2
専門性で明日を拓く　健祥会グループ　理事長　中村　太一　3
特集「自ら求めつながる同窓会」
平成26年度　徳島健祥会福祉専門学校同窓会
総　会　5
講演会　6
特別講演「超高齢社会での徳島健祥会福祉専門学校の役割」　徳島健祥会福祉専門学校　校長　武田　英二
懇親会フォトギャラリー　8
4学科講習会
地域で介護を考える ～北島町において～　通所介護事業所 澄ちゃん家 代表者 NPO法人 YOU&ゆう 理事長　本郷　澄子　先生
発達障がい児の自立と社会参加　徳島県立みなと高等学園　教頭　名山　優　先生
医療福祉制度の行方と専門職のあり方　博愛記念病院　理学療法学科3期生　池村　健　さん
生活行為向上マネジメントについて　介護老人保健施設 すだちの園　作業療法学科3期生　四宮　正貴　さん

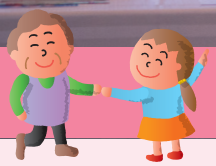
+UPDATE
それぞれの現場で頑張る4学科卒業生近況報告　10
初めに意志ありき　(社)徳島県社会福祉協議会 介護福祉学科2期生　木村 誠一郎　さん
今までの出会いに感謝しこれからの出会いに期待して　とくしま健祥会保育園 保育福祉学科2期生　大西　奈々　さん
好きなことを思いっきり!!それが仕事の活力!!　障害者支援施設 健祥苑 理学療法学科11期生　平野　颯　さん
その人らしさ　健祥会デイセンターカルメン 作業療法学科12期生　佐藤　求　さん
4学科勉強会&特別講義　12
専門職として常に進化し続けるために!いつもいつまでも「学び」を支える同窓会でありたい
NEWS　14
TOPICS ― 学校祭
NEW FACE ― 新教員紹介
TOPICS ― 同窓生ウェディング
同窓会総会報告
同窓会役員
編集後記











特集「自ら求めつながる同窓会」



100名の懐かしい顔が集って
～平成26年度 徳島健祥会福祉専門学校同窓会～

2014年11月24日（月）

同窓会活動を核として、情報の共有や相互研鑽が促進され、専門職としてのキャリアアップにつないでいけるように。また、横だけでなく縦のつながりも大切にし、職においても人生においてもその幅をひろげていけるように。そんな思いで、本年、同窓会総会への参加を例年にも増して積極的に呼びかけ、昨年を大きく上回る100名の参加を得ることができました。

総会、武田英二学校長特別講演、4学科毎の講習会に続いて開催された懇親会では、久々の顔を見つけて盛り上がったり、懐かしい先生方に近況報告したり、賑やかで心和むひとときを過ごしました。中には、県外からわざわざかけつけてくださった方も。初めて参加した同窓生も、「こんなにアットホームだとは思わなかった。講習会もとても有意義だったので来年もまた参加したい」と笑顔で話してくれました。講習会も盛況、懇親会には70名もの方が出席して、とても賑やかに和やかに開催されました。皆様にもっともっと同窓会を身近に感じていただけるよう、新しい企画などにも挑戦しながら、運営していきたいと思います。

武田校長の講演抄録と4学科講習会報告、さらに楽しく盛り上がった懇親会の様子を写真でお届けします。参加できなかった方はぜひご一読ください。知った顔をたくさん見つけてください。そして来年のご参加を心よりお待ちしています。

同窓会報告

同窓会会長　藤原　慶治（介護福祉学科1期生）

平成26年度徳島健祥会福祉専門学校同窓会総会が、グランドパレス徳島にて開催されました。本年度、新しく校長に就任された武田英二先生と同窓生の初顔合わせの総会となり、例年にも増して多くの会員の皆様が参加くださいました。

校長を長らく務め、2014年健祥会の関連法人である医療法人青嵐会の理事長に就任された齋藤史郎先生も名誉校長として出席くださいました。

また、会員の皆様からのご要望を受け、総会に合わせて学科毎の講習会を開催し、現場からの最新の報告に耳を傾けました。来る2015年度は、介護保険制度改正・介護報酬改定の年です。制度の先行きには厳しいものがありますが、制度がどうあろうとも、常に専門性を磨きながら自らの道を極めていくことに変わりはありません。現在、会員は2149人、本年度の卒業生を含めると2311人の大所帯となる中、本同窓会においても、さらに活動を活発にし、卒業生の卒後教育はもとより、在学生や教職員の交流や情報交換の場としてより意義のあるものにしていきたいと考えています。

同窓生もブランドの一翼を担って

健祥会グループ中村太一理事長からは、「明日を想う」というコーポレートメッセージ、「明日の木」をシンボルとしたロゴマーク、イメージイラスト「ハートランド」に込めた想いや、東京と徳島で新しく開設になった施設のこと、医療連携のことなどが語られました。

武田校長からは、「介護、医療、保育という3つの分野を擁する本校でこそできることがある。しっかり連携し、理事長の掲げるブランド化にもつながるような取り組みをしていきたい」と、就任の抱負が語られました。

理事長と校長のお話を聞いて、私たち同窓生もブランドの一翼を担っていることをしっかり認識しなければと強く感じました。

介護医療連携の試金石に！

医療法人青嵐会　理事長　齋藤　史郎



11年の長きにわたり、校長を務められた齋藤史郎名誉校長は、現在、母校に隣接して開院した医療法人青嵐会むくの木クリニックの理事長に就任されています。総会では、「保育福祉学科の新設、徳島大学との共同研究、インドネシア・フィリピンとの交流など、在任中に手がけた事業が成果をみたことは嬉しい限りである。またむくの木クリニックの開院により、医療・介護連携が実現する運びとなり、今、学校は次なる発展の第一歩を歩み始めたところだ。今後も医療・福祉教育の発展に尽力したい」と挨拶をくださいました。

むくの木クリニックは、2014年3月開院以来、外来・入院に続き、健診もスタートさせ、将来的には専門学校学生の実習の受け入れや人間ドックの開設も予定しているとのことです。

同窓会講演会 武田 英二 学校長

特別講演「超高齢社会での徳島健祥会福祉専門学校の役割」



はじめに

海外研修旅行で学生とともに、デンマーク、スウェーデン、ノルウェーのさまざまな福祉の現場を見学してきた。福祉先進国・北欧ではずいぶん機械化が進んでいて、提供する側に負担がなく、受ける側の体を護る介護が実践されている。重い消費税負担と引き換えにゆりかごから墓場まで何もかもが補償されているスウェーデンでは、国民が政治家を信頼しており、いい人を選べばいい政策に反映されるとの考えのもと、80～90％もの高投票だ。残念ながら40％という低投票率で、組織をもつ人が得をする我が国とは大きな違い。社会の意識の差が福祉のサイドからも見えてくるようだった。世界のランキングのトップ10に入る名門、カロリンスカ大学には介護職養成課程があり、卒業後、病院などで現場を経験した後、また大学に戻って博士課程へすすむ人もいて、実践と学問の融合により介護のレベルアップがめざされている。

船旅の途上、バルト海の上で、学生諸君と膝付き合わせてディスカッションができたことは大きな収穫だった。率直に意見を言い合うというのは非常に大切なことであり、本校の教育においてもディスカッションの習慣を育んでいきたいと思う。一方で、言葉遣いを正し、きちんとした言葉で話すことの大切さも学生たちに伝えていかねばと実感した。

2015年度、我が国では、54兆円の税金と36兆円の借金により、96兆円を超える予算が組まれ、歳出の3割を社会保障費が占めている。そして、14年度における国民医療費は31兆円、うち11兆円が老人医療費だ。2025年の高齢化のピークまで伸び続ける医療費をできるだけセーブするには、平均寿命と健康寿命の差（男性9歳・女性11歳）を縮めていくことが肝要であり、我々はそれに貢献できるはず。在宅なのか、施設なのかを含め、利用者にとっても国にとっても最善の方法を模索せねばならない。



健祥会グループは、現在職員数2720人、利用者数約5000人、そして専門学校は教職員39人、学生約400人。グループ全体の中で学校が果たすべき役割について提案したい。

1 運動と栄養のコンビネーションの重要性

- 高齢者について問題となるサルコペニア、フレイルティの発症のメカニズムを探ると、加齢や老化、疾患などによる栄養不足やエネルギー消費量の低下など、さまざまな要因が悪循環し、引き起こされている。
- ←
- 筋力・筋肉量低下、身体機能低下から、QOLの低下、死亡率の増加へとつながっていく。
- タンパク質の摂取量が低くなるほど骨格筋タンパク質や骨格筋の筋肉量も減少し、嚥下障がい、誤嚥、肺炎を引き起こす。肺炎は高齢者死亡率の3位。
- 栄養不良の高齢者の割合は高く、病院や介護施設においても見落とされがちである。
- 栄養は脂肪と筋肉に蓄えられる。筋肉でタンパクをアミノ酸、肝臓で糖に変え、脳へ。肝臓で脂肪をケトン体に、タンパクをグルコースに変えて、脳へ。食べなくても血糖値は下がらず、生きるために脳と赤血球が守られている。タンパク質の摂取量が減るほど筋量が減少し、死に向かう。
- ←
- 健康維持には運動と栄養のコンビネーションが必要であり、両面からアプローチするために、各分野の連携必要。



懇親会 PHOTO GALLERY！

楽しかった懇親会の様子を写真でお届けします。知った顔をたくさん見つけてください。

2 「老い」の時間の捉え方

最大寿命が長い動物ほど性成熟期に達するまでに時間がかかり、子育てに長い時間を要する。また、子孫を残してしまった後の後生殖期は、生物学的にみてとりたてて保障する必要のない、いわば〝おまけ〟の期間。長くなった〝おまけ〟の期間をどう過ごすかが人にとって重要な問題である。

インドには人生を4つの段階に区分する四住期（学習期・家住期・林住期・遊行期）という考え方があるが、私は最後の遊行期について、「世俗的なものから自己を解き放ち、見つめ直す時間を持つ時期。死を意識しながらも自由に遊行する開放感に満ちた時期」という表現が好きだ。

英語で言うと「エイジング」というひとつの言葉が日本語では、「加齢」「老化」「老い」という3つの言葉で表現される。「加齢」とは年齢を重ねていくこと。「老化」とは生理機能が歳とともに衰退していくこと。そして「老い」とは、心の問題であり、自分を見つめ、追求する時間。私はインドの遊行期、日本の「老い」が大切であると考える。

●成長のスピードは似通っているが、老化は個人差が顕著であり、毎日の生活の仕方の違いによるところが大きく、個人の努力や注意によってコントロールできる。

←

●そして、人は齢を重ねたというだけでは決して老いない、自由に生きることの夢を失ったときに、初めて老いるのであり、老いの時間こそ、もっと自由にわくわくしながら生きられるはず。高齢者をこういう視点でケアしていくことが次世代の介護のひとつの在り方ではないか。皆さんの目の前の利用者さんはおまけの時間を生きているのではない。

3 心臓リハビリから認知症まで

●**心臓リハビリテーション**
運動のリハビリ＋食事療法＋水の管理が重要であり、PT・OTが力を発揮しなければならない。

●**転倒・骨折予防**
入浴、食事、外出、口腔ケアなどが相まって成立するものであり、ひとりの専門職でできるものではなく、チーム医療、チーム介護が必要。

●**ビタミンDと高齢者の関係**
健祥会グループにおける徳島大学の介入研究により示されたエビデンス

加齢に伴い、運動量・食事量・紫外線照射が低下
↓
ビタミンDが不足しやすい
↓
筋機能、骨機能が低下し、転倒、骨折のリスクが増加

●**スキャモンの臓器別発育曲線**
神経は4～5歳で大人の90％程度まで成長する。この時期の栄養、運動が非常に大切。

●**共に食事することで育まれる愛情と愛着**
子どもの心身の健康にとって一番重要なのは愛情と愛着の形成であり、赤ちゃんは母乳から栄養だけでなく愛情も与えられて育つ。母親にとっても、母乳を与えることで産褥から早く回復し、母性の目覚めという素晴らしい効果を得ていることが科学的に解明されている。愛情と愛着の形成の一番の基盤は家族で一緒に食事することだ。三世代が食卓を囲むことの素晴らしさ！こうしたカタチを介護施設でも実践できたらいいのではないか。



●**「脳からストレスを消す食事」**
認知症の防御因子はさまざまあるが、これらをいかにコンビネーションして予防していくかが大事であり、私も勉強中である。
10年程前、文科省から5年間研究費をもらって、9人のチームで研究し、「脳からストレスを消す食事」という本にまとめた。興味があればご一読願う。

まとめ

専門学校は、教員のレベルアップを図りながら教育・研究のさらなる充実を図らねばならない。また、現場を見ずに教えることに限界を感じているので、現場とさらに連携していきたい。実習でお世話をかけるだけでなく、現場へ学術情報をしっかりお届けしていきたい。現場と専門学校が連携することにより、健祥会グループのめざすブランド化を力強く推進していけるだろう。

超高齢社会での徳島健祥会福祉専門学校の役割

人材育成（教育）

リハビリテーション・栄養管理技術が融合した新規介護技術の実践

医療、介護、保育現場と連携したエビデンスの追求（研究）

↓

質のアップによって人材確保を図り健祥会の新たなブランド化実現！



現場からの貴重な報告に耳を傾けて

■介護福祉学科

地域で介護を考える ～北島町において～



講師 本郷　澄子 先生

通所介護事業所 澄ちゃん家 代表者
NPO法人 YOU&ゆう 理事長

1971年に日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科を卒業してから現在まで、福祉一筋に歩んでこられた本郷先生。専門性のアップをめざして名古屋の大学院で福祉の研究に励んでいた1996年には、平日は名古屋で学び、休日には夜行バスで徳島に戻って父親の介護をしていたというバイタリティの持ち主です。また、病院での父と地域で過ごす父の様子の違いから、「高齢者は地域にいてこそ幸せ！」との思いを強くし、2001年、ボランティア組織「北島町で老後を考える会」を結成。翌年には、通りがかった神社でお年寄りが集まって楽しそうに話している姿を見て、「地域の老後の居場所を作りたい！」と一念発起。北島町に家を借りて、宅老所「ひなたぼっこの家」を開設するとともに、同時進行で、大学の介護福祉養成課程の教員として人材育成にも携わってこられました。現在もふたつの肩書をもち、地域福祉や人材育成に尽力されています。

講習会では、本郷先生のこれまでの活動と、地域包括ケアシステムの実現へ向けての考え方や課題を紹介いただきました。先生のお話からは、普段の何気ない光景の中に地域福祉の芽を見い出す視点の鋭さと迷わず突き進む実践力、そしてコツコツと続けることの重要性が説得力を持って伝わってきました。続けるためには、自分の今いる場所だけで方法を考えるのではなく、他の事業所や学校、ボランティア、行政など、多くの人との連携こそ大切であると学びました。どうしても今いる場所から外に目を向けることが疎かになりがちな中で、事業所も地域の一員であるということを意識し、〝今日からいろいろな人と関わっていきたい〟と、元気をいただいた講習会でした。

（介護福祉学科教員・宮崎春香／記）



■保育福祉学科

発達障がい児の自立と社会参加



講師 名山　優 先生

徳島県立みなと高等学園 教頭

主な発達障がいには、学習障がい（LD）、注意欠陥・多動性障がい（ADHD）、自閉症スペクトラムがあります。中でも学習障がいは、知的な面は他の子と変わらないために気付かれにくく、小学校に入学して勉強を始めてからわかるケースが多いとのことです。学習障がい児に文字がどのように見えているのか、実際に見せていただき、驚きました。小学校から、中学、高校でも、毎時間、毎日、辛い思いで過ごしていたり、自信をなくして消極的になったり、学力が育まれないといった二次障がいにつながっていくことも理解できました。保育園・幼稚園でも、就学前の年長児で字に興味を示さない子などは気にとめる必要があります。まわりに理解してあげられる人がいるか、いないかで勉強や社会生活への意欲などに大きく違いがでてきます。また、みなと高等学園の取り組みから、発達障がい児の就労上の課題についてもお話しくださいました。

子どもの頃から身に付けたいことが4点…①生活リズムの安定②あいさつの習慣③家庭や幼稚園でのお手伝い④色々なことへのチャレンジです。私たちも保育の現場で4つの視点を持っていたいと思います。

名山先生のご講演を聞き、障がいがあってもなくても、当たり前のことが当たり前にできる社会をつくることが私たちの役割であることを再認識しました。

（保育福祉学科1期生・高井あゆみ／記）



■理学療法学科

医療福祉制度の行方と専門職のあり方



講師 池村　健 さん

博愛記念病院
理学療法学科３期生

徳島健祥会福祉専門学校を卒業し、理学療法士免許を取得して早や10年が過ぎようとしています。この間、私たちの職種を取り巻く制度は目まぐるしく変遷してきました。超高齢社会である現在、来たるべき２０２５年問題に向け、地域包括ケアシステムという構想に基づき、医療介護制度はもとより、生活環境、生活支援、介護予防の各視点でのインフラ整備がすすめられようとしています。今後、私たちのステージは多岐にわたり、各々の分野で今より高度な知識や技術が求められることになるでしょう。

その中で、理学療法士としての第一義は、「目の前にいる対象者さんに最適な治療方法を選択して適用することができるかどうか」に尽きると思います。そのために、日々の臨床推論と根拠を基にした治療を実践すること、そしてそれらから得られた効果を蓄積し、臨床研究の結果としてさらなる根拠へと導く努力を行うことが求められます。

職種や職域を守り、より広めていくために、集団の力はとても重要です。理学療法士会や同窓会等の活動にも積極的に参加し、常にアンテナを張り自分にできることを考えていくことも大切です。

「はじめに意志ありき」に始まり「そして労を惜しむな」と結ぶ、母校で学んだ教訓は、これまでもこれからも、私にとって人生の標となる大切な教えです。



■作業療法学科

生活行為向上マネジメントについて



講師 四宮　正貴 さん

介護老人保健施設 すだちの園
作業療法学科３期生

皆さんは、作業療法士として何に重きをおいて専門性を発揮していますか？作業療法と一言で言ってもとても幅が広く、上手く答えられない方もいるでしょうし、高齢者を対象としていた私も「作業療法士として何ができるのだろう」と考え込んでしまったこともありました。

けれど、自分なりの作業療法論を確立し、「作業療法とは、こういうものです」と胸を張って人に伝えたいという思いを強く持つようになり、生活行為向上マネジメントに取り組むことになりました。

生活行為向上マネジメントは、人が生きていく上で営まれる生活全般の行為の自立支援に向けたリハビリテーションを指し、一連のプロセスに沿って検討・実践されます。対象者と目的を共有し、一緒に作業療法を行っていきたいと願った作業療法士たちによって作り上げられてきたのが生活行為向上マネジメントであり、その輪の広がりは、行政にも影響を与えました。厚生労働省平成25年度老人保健健康増進等事業のモデル事業にも選ばれ、その効果が期待されています。

一番重要なことは、対象者のやりたいこと、真に願う生活を浮き彫りにすることです。私たち作業療法士から「これをやりましょう」との提示は行いません。一緒に目的を見出し、共有し、目的に向かって進んで行かなければ意味がないのです。

もう一つ大事な要素は、それを誰が見ても分かるように伝えることです。なぜなら、本人だけ、作業療法士だけでは、生活全体を変えることは難しいから。他職種・家族・地域をも巻き込んで、皆でその人を、その環境を変えていくことによってはじめて、リハビリテーションの成功といえるのです。

誰もがより良く生きるためのリハビリテーションの牽引者として、作業療法士という存在がその中心で在り続けることを切に願い、切磋琢磨していきましょう。





初めに意志ありき

木村　誠一郎 さん　介護福祉学科２期生

勤務先　社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
福祉人材センター 福祉施設（種別協）担当　主任主事

「初めに意志ありき 観察眼を養え 問題提起力を持て そして労を惜しむな」２年間学んだ校舎の石碑に刻まれた学校訓です。在学中には深く意にとめることのなかった言葉ですが、２度の転職を経て徳島県社会福祉協議会（県社協）で働く今、私の心にしっかりと刻み込まれています。

卒業後、介護保険施設や在宅介護サービス事業所で介護・相談業務に就き、現場経験を積みましたが、その頃は、目の前の仕事に追われ、忙しく身体を動かしていただけだったような気がします。

１度目の転職を機に公私ともに人生の師と仰ぐ先輩に出会い、職業観や人生観について共に語らう中で、いつの頃からか先述の訓を意識し、「利用者と接するときには年長者に対する尊敬の念をもって、心身の状態を丁寧に観察し、その人らしく暮らせるように、できることを全力でやる」という介護のノウハウとして解釈しました。

それから数年、目の前の利用者だけでなく、社会構造や経済状況、福祉業界の現状などに少しずつ興味が出始めた頃、現在の職場である県社協に出会いました。

現在、徳島県老人福祉施設協議会や徳島県保育事業連合会などの事務局を担当し、各団体の意思や方向性に寄り添いながら、会務の執行や研修会の運営を行っています。また、「誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくり」という社協の使命のもと、地域福祉の様々な課題の解決に向かって日々の業務に取り組んでいます。



そこには、「自分が成すべき使命のために、観るべきものを観る、地域の福祉課題に対して、果たすべき役割がある」のであり、これがまさに今現在の私の訓の解釈となっています。そしてこの訓は、この先いつまでも、私の人生の標であり続けるような気がしています。

＋UPDATE
それぞれの現場で頑張る 4学科卒業生近況報告



今までの出会いに感謝し これからの出会いに期待して

大西　菜々 さん　保育福祉学科２期生

勤務先　社会福祉法人 健祥会
とくしま健祥会保育園

とくしま健祥会保育園で保育士として２年目を迎えています。１年目は１歳児を担任し、日々の生活の流れや子どものことを把握するのに精一杯でした。２年目も引き続き１歳児担任となり、まだまだ学ぶことはいっぱいですが、１年間の経験を活かしながら、チャレンジの年にしたいと頑張っています。

苦手意識から消極的だったピアノの弾き語りにも今年は積極的に取り組んでいます。今では、子どもたちからリクエストをもらい、大きな声で繰り返し歌ったり、体を動かしたり・・・。音によって表現することの素晴らしさを味わいながら、毎日子どもたちと楽しい時間を過ごしています。

延長保育や土曜保育では、自分のクラスだけでなく他のクラスの子どもを保育する機会も増え、先輩に教えていただきながら、授乳や離乳食など、新たなことにもチャレンジしています。他のクラスの子どもにも目を向け、子ども一人ひとりに合わせて丁寧に関わっていくことで、保育の奥深さを知ると同時に責任の重大さを実感しています。



仕事以外では、専門学校時代に知り合った保育関係の友達と一緒に今もボランティア活動に参加し、交流の機会を持ち続けています。外に広がりを持つことで新たな出会いがあり、つながり合って過ごす時間がとても楽しく大切に思えます。

小さい頃からの夢であった「保育士」になることは叶いましたが、これからもいろいろなことにチャレンジして、学ぶ姿勢を忘れないようにしたいです。そして、自分の明日を想い、子どもたちの明日を想い、子どもたちのよりよい成長のためにもっともっと保育力を高めたいです。今までの出会いに感謝し、これからの出会いに期待しながら、人と人とのつながりを大切にしていきたいと思います。

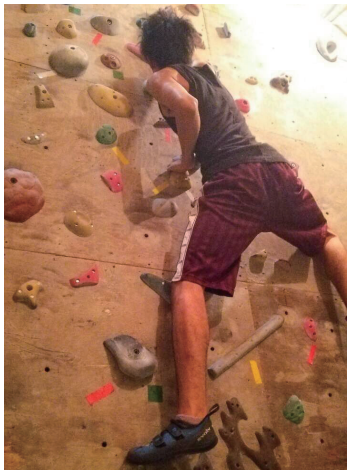


好きなことを思いっきり！！ それが仕事の活力！！

平野　颯 さん　理学療法学科 11 期生

勤務先　社会福祉法人 健祥会
障害者支援施設 健祥苑

身体障害者施設で理学療法士として勤務しています。現在の私があるのも、親身に指導・支援くださった専門学校の先生方のおかげと、感謝しながら、日々の業務に励んでいます。
さて、卒業生の近況報告ということで、職場での仕事ぶりなどをお話するのが本来の趣旨なのかもしれませんが、私は趣向を変えて、趣味や休日の過ごし方について紹介させていただきます。
休日は、もっぱら、運動したり映画を観たりして過ごしています。映画は、ＳＦからホラーまで様々なジャンルを観ます。観て楽しむだけでなく、同じ映画好きの友人と批評し合ったり、作品を勧め合ったりしながら、映画を通じて人間関係が深まる喜びも味わっています。映画から受ける様々な刺激は、仕事での疲れを癒してくれます。
また、子どもの頃から体を動かすことが大好きで、今も野球やソフトボールを父と楽しんでいます。50歳を迎えた父と、競い合い、讃え合い、スポーツを通して良い親子関係が保てていると感じます。父を、コーチとして、選手として、そして父親としても尊敬しており、今後もできるだけ長く、できるだけ多くの試合を、同じグランドで経験したいと願っています。



冬には、友人と兵庫県や鳥取県などのゲレンデへ出かけ、スノーボードを楽しみます。大自然の中で、思い切り体を動かすことで、明日への活力、仕事への意欲が湧いてくるようです。
良い休日を過ごせば、仕事への意欲も高まります。オンオフをしっかり切り替えて、利用者様のため、地域社会のために少しでも役立てるよう頑張っていきたいと思います。まだまだ未熟な私ですが、先生方、諸先輩、そして同窓生の皆様方、今後ともご指導、ご鞭撻いただけますよう、よろしくお願いいたします。



その人らしさ

佐藤　求 さん　作業療法学科 12 期生

勤務先　社会福祉法人 健祥会
健祥会デイセンターカルメン

福祉とは異なる業界に身をおいていた私が、作業療法士をめざして徳島健祥会福祉専門学校に入学したのは40歳代でした。ずいぶん齢の違う同級生たちと励まし励まされ、先生方に支えられながら、勉学に励んだ3年間。国家試験に合格後、健祥会のデイセンターカルメンで機能訓練指導員として勤務しています。
施設内では一人で100名以上の利用者様の機能訓練を担当しています。学校で学んだことや実習で得た経験と現実とのギャップに悩んだこともありました。忙しさから、作業療法士を志した初心を忘れそうになったこともありました。しかし、頼ってくださっている利用者様の笑顔や頑張る姿に心を奮い立たせながら必死で頑張るうち、デイで楽しい時間を過ごしていただくことができれば、その時間の積み重ねが利用者様の人生に充実をもたらしてくれる、そう思えるようになり、すべてを利用者様本位に考えられるようになりました。
利用者様と信頼関係を築くにはコミュニケーションが非常に重要であることも学びました。人生の先輩である利用者様から教えていただくことも多く、人との出会いに育てられていることを実感しつつ、作業療法士として充実した毎日を過ごしています。もちろん、福祉・医療分野では法律も技術も日進月歩ですから、研修やセミナーにはできるだけ参加し、スキルアップを心がけています。



作業療法士としても、また一人の人間としても、利用者様に寄り添う心は同じです。これまでの人生経験を生かし、専門性を磨きながら、利用者様により良い機能訓練が提供できるよう努めていきたいと思います。難題に直面し、挫けそうになることもあるでしょうが、そんなときには初心に立ち返りながら頑張っていこうと思います。

専門職として常に進化し続けるために！
いつもいつまでも
「学び」を支える同窓会でありたい



～臨床実習に向けた特別講義
作業療法学科
第２回「スポーツ分野の作業療法」
2014年4月10日（木）　講師：美馬 久美子 さん

技術も理論も日進月歩、専門職として常に学び進化し続けなければなりません。卒後教育に力を入れる本校では、同窓会と学校とが協力して同窓生の学びを力強くバックアップしており、学科ごとの勉強会も年々充実しています。そして、本校同窓生が講師となり、在校生へ向けた特別講義も実施しています。

介護福祉学科

「同窓生が母校に足を運んでくれること、出会えることが本当に嬉しい！」

第1回「介護福祉士に必要な薬の知識」

■開催日：2014年6月16日（月）
■講　師：長尾 文代 先生（介護福祉学科 学科長）
■参加者：16名

久しぶりに先生の講義を受け、学生時代にタイムスリップしたのではないでしょうか。



第2回「認知症ケア」講義・演習

■開催日：2014年8月20日（水）
■講　師：平田 裕樹 さん
（介護福祉学科4期生／健祥会パーデン）
■参加者：8名

7月に在校生の授業にも初めて来ていただき、「わかりやすい！」「おもしろい！」と評判だった平田さんの講義は、同窓生にも好評でした。



第3回「リスクマネジメントについて」講義・演習

■開催日：2014年10月29日（水）
■講　師：井後 定治 さん
（介護福祉学科9期生／健祥会ヘルス）
■参加者：23名

井後さんには実習指導者としても人材育成に尽力していただいており、お世話になった実習生からの申し出により、在校生も参加しての勉強会となりました。実際の施設の映像やワークシートを活用し、「考える」機会になったようです。



第4回「感染症の対応について」

■開催日：2015年1月23日（金）
■講　師：長尾 文代 先生（介護福祉学科 学科長）
■参加者：11名

介護・保育福祉学科の合同勉強会として実施されました。

同窓会勉強会も2年目となり、嬉しいことに問い合わせをいただけるようになりました。毎回参加してくれる方、勉強会をきっかけに数年ぶりに母校に足を運んでくれた方、どの同窓生も専門職として働く中で、学ぶ必要性を実感していることが伝わってきます。勉強会を通しての学びや出会いを大切に、今後も明日への活力となれるような勉強会を継続していきたいと思います。

4学科勉強会＆特別講義

保育福祉学科

「悩みも話せる、高め合える、この場が明日の元気をくれる」

第1回「意見交換会」

■開催日：2014年5月16日（金）
■参加者：7名（保育福祉学科1期生1名、2期生4名、3期生2名）

初めに今年度赴任した吉野 勝裕 学科長を紹介。「現場での実践を通して」というテーマで意見交換をしました。職場での人間関係や保護者対応、子ども達一人ひとりとの関わり方など、様々な思いや事例の報告などがありました。また、専門職の立場から「実習生を受け入れるにあたり、実習生に求めること、注意すべきこと」など、学生時には気づけなかったことをそれぞれ話し合いました。社会福祉士国家試験受験資格取得に向けての勉強会は、9月から翌2015年1月まで計8回、国家試験へのそれぞれの計画を立てて臨んでいます。



第2回「自然体験を通して」事例発表

■開催日：2014年10月4日（土）
■講　師：中尾　和 さん
（保育福祉学科2期生／社会福祉法人蒼生会 ひまわり保育園）
■参加者：8名

自然との触れ合いが五感を刺激している事例や食育への取り組みの紹介、子ども同士の喧嘩の場面から子どもたちが何を学んでいるのかを考えた事例など、興味深い発表でした。

第3回「感染症の対応について」

■開催日：2015年1月23日（金）
■講　師：長尾 文代 先生（介護福祉学科学科長）
■参加者：11名
保育・介護福祉学科の合同勉強会として実施されました。

今後も継続的に実施し、誰でも自分の考えを発言できる参加型の勉強会として、お互いに高め合える場にしていきたいと思っています。

作業療法学科

「作業療法学科12期生による事例検討・伝達講習」

■開催日：2014年12月5日（金）

①活動分析について（伝達講習）
■講　師：森本 洸平 さん
（作業療法学科12期生／天満病院）

②事例検討
■講　師：佐藤　求 さん
（作業療法学科12期生／健祥会デイセンターカルメン）
■参加者：3名



2014年4月から働き始めた12期生が日頃の業務の悩みや技術面の課題などを、事例を通して学びました。今後も同窓生にとって学びの多い勉強会にしていきたいと思っていますので、ご意見、ご要望をお聞かせください。

同窓生から在校生へ 臨床実習に向けた特別講義

現場で活躍する同窓生による特別講義として、これから臨床実習に臨む在校生に、職業人としての倫理観や、専門的知識・技術力を高めて最先端技術を修得することの大切さなどを講義いただいています。知識・技術の講義のみならず、自分の学生時代の臨床実習での経験談や、実習で大切な礼儀・言葉遣い・患者様に対する気配り・積極的な態度などを分かりやすく説明。現場に臨むための心構えになるとともに、これから臨床実習に臨む在校生にとって先輩からの親身なアドバイスは、不安感も和らげてくれるものとして大変好評です。今後も、在校生のために、母校に貢献する機会を増やしていきたいと思っています。

介護福祉学科

第1回「認知症の理解」

■開催日：2014年7月24日（木）
■講　師：平田 裕樹 さん
（介護福祉学科4期生／健祥会パーデン）

第2回「認知症の理解」

■開催日：2014年7月29日（火）
■講　師：新居 裕也 さん
（介護福祉学科9期生／ジャンボ緑風会）



理学療法学科

第1回「スポーツに対する評価」

■開催日：2014年4月16日（水）
■講　師：流　一貴 さん
（理学療法学科4期生／加藤整形外科病院）

第2回「小児・糖尿病・予防介護事業」

■開催日：2014年4月23日（水）
■講　師：仁田 裕也 さん
（理学療法学科1期生／天満病院）



作業療法学科

第1回「訪問作業療法」

■開催日：2014年4月8日（火）
■講　師：林　咲恵 さん
（作業療法学科9期生／訪問看護ステーションマリル）

第2回「スポーツ分野の作業療法」

■開催日：2014年4月10日（木）
■講　師：美馬 久美子 さん
（作業療法学科8期生／鴨島病院）

第3回「長期臨床実習時の評価、治療の流れ」

■開催日：2014年4月22日（火）
■講　師：松村 幸治 さん
（作業療法学科5期生／橋本病院）









未来
～僕らが輝く場所～

第19回 徳島健祥会福祉専門学校 学校祭

文化講演会

「あなたの口腔ケアは、なぜうまくいかないのか」

講師 舘村 卓 先生

「未来～僕らが輝く場所～」と掲げて開催された第19回徳島健祥会福祉専門学校学校祭では、恒例の文化講演会が開催されました。講師は、「限界無き口腔ケアと健康のための医療福祉団一般社団法人 TOUCH」理事長の舘村卓先生。摂食嚥下障がいと音声言語障がいの臨床・研究の第一人者とあって、「あなたの口腔ケアは、なぜうまくいかないのか」と題したご講演には、専門学校の学生をはじめ、同窓生の皆さん、歯科衛生士や特別支援教育の現場の方などもたくさん参加くださいました。

先生は、安全快適に食べるためのポイントとして、「呼吸器の安全性の確保」「口腔～咽頭機能の賦活」「食物の調整」をあげて、誤嚥防止姿勢、プラークコントロールと口腔機能訓練の大切さなどをわかりやすく解説くださり、経口摂取の大切さを再認識させられました。ケアする立場のものが、「自分もこのようにされたいか、こうしたいか」と自らに問いながら、その人にとって心地良いことをしてさしあげるのだという意識を持つことの大切さも教えていただき、現場だけでなく、高齢の家族のためにも、学ぶことの多い講演でした。



高齢者疑似体験



スーパーライブを終えて



しんまち七色ばんど



大円陣を組んで学校祭スタート!

平成26年度徳島健祥会福祉専門学校 同窓会総会報告

2014年11月24日(月)グランドパレス徳島

同窓会総会は例年、学校祭当日に学校で開催していましたが、本年度は、4学科講習会とのセットで、グランドパレス徳島を会場として開催されました。議案として、①平成25年度の事業報告②平成25年度会計報告③平成26年度事業計画（案）④平成26年度新役員（案）が上程され、すべてが滞りなく承認されました。

平成26年度徳島健祥会福祉専門学校 同窓会役員

会長	藤原 慶治	（介護福祉学科1期）
副会長	池村 健	（理学療法学科3期）
	高田 将輝	（作業療法学科5期）
	武田 英二	（校長）
幹事	長谷部 有哉	（作業療法学科5期）
	竹内 大介	（理学療法学科1期）
	乾 静香	（介護福祉学科14期）
	多田 裕介	（保育福祉学科1期）
	渡部 寛生	（理学療法学科11期）
	多田 薫	（作業療法学科9期）
会計	加藤 志帆	（理学療法学科5期）
	濱田 哉美	（介護福祉学科16期）
監事	石井 嘉一	（介護福祉学科4期）
	元島 直美	（作業療法学科4期）
	大前 博司	（作業療法学科9期）
	荒岡 優	（介護福祉学科14期）

新役員として、齋藤史郎名誉校長にかわって、武田英二校長が、副会長に就任。会計の横野志帆さんは加藤志帆さんに、監事の山橋直美さんは元島直美さんに、それぞれお名前が変わりました。

NEW FACE | 新教員紹介

すばらしい人材を迎え、卒後教育もさらに充実を！

出会いを大切に



久米 寛子 先生
作業療法学科
教 員

介護老人保健施設で勤務し、今年で作業療法士として 10 年を迎えます。10 年目という節目に、母校である徳島健祥会福祉専門学校の教員として勤務することになり、初心に帰る思いです。
作業療法士は、様々な人との多様な関わりが必要とされる職業ですが、その人らしさを活かし、その方が望む生活に近づくための手助けができる、やりがいある仕事だと思います。今まで自分を成長させてくれたすべての出会いに感謝し、これから出会う学生たちに知識や技術だけでなく人と関わることの大切さを伝えていけたらと思います。教員としてまだまだですが、学生とともに自分自身も成長していきたいと思います。これからよろしくお願いいたします。

地域に信頼される特色ある学校づくりをめざして



吉野 勝裕 先生
保育福祉学科
学科長

高校教員を定年退職し、今年度より保育福祉学科長を務めさせていただいています。本校の学生の第一印象はきちんとあいさつができること。また、遅くまで学校に残って勉強している様子には感心することしきりです。前任校の卒業生が元気で頑張っている姿に頼もしさを感じました。
これからの保育福祉学科のあるべき姿を考えると、自らの職責の重さに身が引き締まる思いです。地域や高校生とその保護者、そして卒業生に信頼され、より多くの人が、本校で学びたい、健祥会で働きたいと希望してくれますよう、学生募集や広報にも精一杯頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

TOPICS | 同窓生ウェディング

出会った場所で幸せを誓う

生野 一成さん（介護福祉学科13期生 理学療法学科12期生） ＆ **川村 真美**さん（介護福祉学科13期生）



Congratulations on your wedding!!

2014 年 7 月に同窓生同士で結婚された生野一成さん（勤務先：社会福祉法人緑風会 ジャンボ緑風会）と川村真美さん。介護福祉学科でクラスメイトとして出会い、卒業後は、生野さんは本校理学療法学科へ進学、川村さんは介護福祉士として働き始めました。そして、生野さんの卒業と国家試験合格を機に晴れて結婚へ。「出会った場所で、思い出がつまったこの学校で、前撮りをしたい！」というお二人のかねてよりの念願を学校が快諾し、本校での撮影会となりました。
当日はあいにくの曇天でしたが、花嫁のビタミンカラーのカクテルドレスと二人のあつあつの笑顔は曇り空も吹き飛ばす勢い。図書室や中庭、そして視聴覚教室では、在校生たちも祝福する中で撮影を行いました。
微笑ましくあたたかな時間の中で、同行していた教職員の目尻は下がり、頬も緩みっぱなし。卒業生の幸せな様子を見ることが一番の喜びであり、「教員やってて よかったなぁ〜」と実感するひとときでした。本当におめでとうございます。末永くお幸せに…！

編集後記

事務局より

今年度の同窓会総会は、同窓生や教員が電話でお誘いしたり、声かけの輪を広げたりしたかいあって、講演会、講習会ともに大盛況、とても賑やかに和やかに開催されました。
中村太一理事長、武田英二校長の新体制となり、改めて学校訓を噛み締めた2014年度。続く2015年度は介護福祉学科に20回目の新入生を迎え、創立20周年を目前にひとつの大きな節目を迎えます。
介護福祉士・保育士・理学療法士・作業療法士として全国で働く本校同窓会会員は、2100人を越えました。皆様とネットワークを構築し、それぞれの専門性に資するためにより充実した同窓会活動を展開していきたいと思います。「自ら求めつながる同窓会」になりますよう、今後とも、より多くの会員の皆様に同窓会活動に関心をもっていただき、忌憚のないご意見とご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、会報誌制作にあたりご指導・ご協力をいただきました皆様方に心より感謝申し上げます。

社会福祉法人 健祥会
徳島健祥会福祉専門学校

徳島健祥会福祉専門学校の最新情報は
ウェブサイトよりご覧いただけます
www.kensyokai.ac.jp

徳島健祥会福祉専門学校 同窓会会報 | ウィル

発行元　徳島健祥会福祉専門学校同窓会　　発行日　2015 年 3 月 1 日
〒779-3105 徳島県徳島市国府町東高輪　TEL088-642-9666　info@kensyokai.ac.jp